

令和6－8年度府民意識調査の定量分析

分析を行った設問

○性別による制約

あなたは、今の社会（家庭・職場・地域社会などのさまざまな場）は、性別によってやりたいことが制限されていると思いますか。

○能力発揮

あなたは、仕事をはじめ社会的な生活を営む上で、自分の持っている才能や知識、技量などが十分に発揮できていると思いますか。

調査概要①

調査対象

【調査対象】 京都府に在住の満18歳以上の府民5,000人（各年度）

【有効回答数】 2,272名（R8度）、2,167名（R7度）、2,077名（R6度）

定量分析手法

- ・ 対象設問 2 問について、同設問の回答を従属変数、性別、年齢、有無職の別を説明変数として重回帰分析。
- ・ 有意水準は 5 % に設定。
- ・ 上記分析を、京都府全域、丹後、中丹、南丹、京都市、乙訓、山城北部、学研、相楽東部のそれぞれについて実施。
- ・ 十分なサンプル数を確保するため、令和 6 年度～ 8 年度の 3 年度の回答を合算。

【留意事項】

本分析は、調査データの二次利用による探索的な分析であり、複数年度の調査結果を統合して用いていることや、年齢について実数値ではなく調査票上の回答区分を用いていることなど、分析上の制約がある。そのため、数値の絶対的な大小や効果量の厳密な比較ではなく、全体的な傾向を把握するための参考情報として活用するなど、分析結果の解釈に当たっては一定の留意が必要。

調査概要②

対象設問

【設問18】あなたは、今の社会（家庭・職場・地域社会などのさまざまな場）は、性別によってやりたいことが制限されていると思いますか。

1. そう思わない 2. どちらかというと思わない
3. どちらかというと思う 4. そう思う

※調査における選択肢は、「1. そう思う」「2. どちらかというと思う」「3. どちらかというと思わない」「4. そう思わない」であったが、結果の解釈を容易にするため、分析においては、値が大きいほど「そう思う」となるよう選択肢を反転

【設問52】あなたは、仕事をはじめ社会的な生活を営む上で、自分の持っている才能や知識、技量などが十分に発揮できていると思いますか。

1. そう思う 2. どちらかというと思う
3. どちらかというと思わない 4. そう思わない

属性設問

性別： 0. 男性、1. 女性

年齢： 1. 18～19歳、2. 20～24歳、3. 25～29歳、4. 30～34歳、
5. 35～39歳、6. 40～44歳、7. 45～49歳、8. 50～54歳、
9. 55～59歳、10. 60～64歳、11. 65～69歳、12. 70歳以上

有無職： 0. 無職、1. 有職

分析結果①

府域全域の分析結果

性別による制約あり：【設問18】あなたは、今の社会（家庭・職場・地域社会などのさまざまな場）は、性別によってやりたいことが制限されていると思いますか。

$y = 1. \text{ そう思わない} \sim 4. \text{ そう思う}$

・全地域（ $n=6,516$ ）（補正 $R^2=0.0067$ ）

$y = 2.41 + 0.14* (\text{女性}) - 0.0077* (\text{年齢})$ ※有無職の別については有意差は認められなかった

「女性であること」「年齢が低いこと」は、「性別による制約がある」との認識と統計的に有意な関連が認められた。なお、モデルの説明力は低く（補正 $R^2=0.0067$ ）、これらの説明変数によって説明される認識の差異は限定的である。

能力発揮できていない：【設問52】あなたは、仕事をはじめ社会的な生活を営む上で、自分の持っている才能や知識、技量などが十分に発揮できていると思いますか。

$y = 1. \text{ そう思う} \sim 4. \text{ そう思わない}$

・全地域（ $n=6,516$ ）（補正 $R^2=0.12$ ）

$y = 2.61 + 0.13* (\text{女性}) + 0.030* (\text{年齢}) - 0.52* (\text{有職})$

「女性であること」「年齢が高いこと」「無職であること」は、「自分の持っている才能や知識、技量などが十分に発揮できていない」との認識と統計的に有意な関連が見られた。特に有無職の別は能力発揮に関する認識に影響を与える要因の一つであることが示された。

※分析結果が「－」となっているものや分析結果において特定の説明変数が記載されていないものについては、有意差が認められなかった。

地域ごとの分析結果

性別による制約あり

- | | |
|---|--|
| ・ 丹後 (n=643) (補正R ² =0.0091)
y=2.47+0.18* (女性) | ・ 乙訓 (n=657) (補正R ² =0.0095)
y=2.21+0.20* (女性) |
| ・ 中丹 (n=601)
— | ・ 山城北部 (n=673)
— |
| ・ 南丹 (n=659)
— | ・ 学研 (n=610) (補正R ² =0.0039)
y=2.38+0.16* (女性) |
| ・ 京都市 (n=2,140) (補正R ² =0.0044)
y=2.44+0.13* (女性) | ・ 相楽東部 (n=533) (補正R ² =0.011)
y=2.64-0.035* (年齢) |

能力発揮できていない

- | | |
|---|---|
| ・ 丹後 (n=643) (補正R ² =0.12)
y=2.91+0.16* (女性) - 0.54* (有職) | ・ 乙訓 (n=657) (補正R ² =0.12)
y=2.41+0.048* (年齢) - 0.47* (有職) |
| ・ 中丹 (n=601) (補正R ² =0.093)
y=2.76-0.47* (有無職) | ・ 山城北部 (n=673) (補正R ² =0.10)
y=2.68-0.51* (有職) |
| ・ 南丹 (n=659) (補正R ² =0.11)
y=2.58+0.036* (年齢) - 0.48* (有職) | ・ 学研 (n=610) (補正R ² =0.12)
y=2.50+0.042* (年齢) - 0.52* (有職) |
| ・ 京都市 (n=2,140) (補正R ² =0.11)
y=2.62+0.15* (女性) +0.018* (年齢) - 0.54* (有職) | ・ 相楽東部 (n=533) (補正R ² =0.15)
y=2.81+0.21* (女性) - 0.64* (有職) |